

8 広島大学附属三原小学校・広島大学附属三原中学校

1. 資質・能力育成に向けた取組

本小中学校は、新領域「希望(のぞみ)」の時間を核とし、幼稚園を含めた12年間一貫の全教育活動において、「キャリアプランニング能力(なりたい自分になる力)、人間関係形成・社会形成能力(関係を構築する力)、課題対応能力(達成へ向かう力)」の三つの資質・能力と、「自律・共生・参画」の三つの態度・価値観の育成を目指している(図1)。これらは、「社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観の体系的な育成のための、幼小中一貫の新領域を核とした自己開発型教育の研究開発」に取り組む中で、子供の実態や児童生徒質問紙調査結果の因子分析等を総合的に判断し焦点化したものである。



図1 教育課程構造図

2. 資質・能力を育む学習活動

幼小中の12年間を発達の特性や接続を意識した5区分(年少・年中、年長～小2、3・4年、小5～中1、中2・3年)で捉え、資質・能力に係る到達目標を設定した。また小中学校では、道徳及び特別活動の一部と「総合的な学習の時間」の時数を削減し、新領域「希望(のぞみ)」(小1:54, 小2:55, 小3～6:各90, 中1:70, 中2～3:各90時間)を設置した。そして、人的リソースの活用や、PDCAサイクルによる主体的に自己を変容させる評価を特色とした体験的な問題解決学習等の単元を開発した。さらに、三つの資質・能力は全教育活動で育むべき「通教科的能力」と位置付け、各教科では、「通教科的能力と関連的に育む各教科の本質に根ざした資質・能力」を明確にし、授業改善に取り組んでいる。

3. 評価の実践

(1) 評価の枠組みや体制

新領域「希望(のぞみ)」では、三つの資質・能力について12年間の系統的な到達目標を設定し、その評価を通して、「めざす姿」に向けて自分を振り返り、成長させることができる子供の育成を目指す。そのため、評価プロジェクトチームが作成した12年間一貫ルーブリック表をもとに、教師が見取りを行うとともに、OPPA(One Paper Portfolio Assessment)による「主体的に自己を変容させる評価」を試みた。また、教科においても、「希望(のぞみ)」の評価を生かしながら、学習指導要領の評価の観点と関連させた評価を実践している。

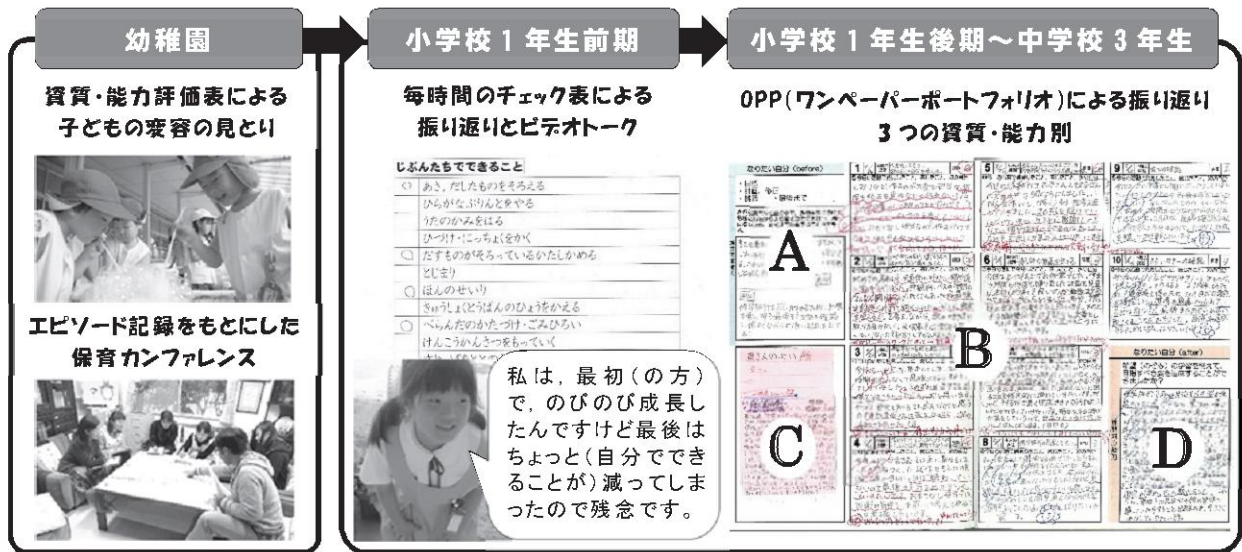
(2) 評価方法等

「希望(のぞみ)」の評価方法と評価方法の開発で目指す姿は、次のとおりである。

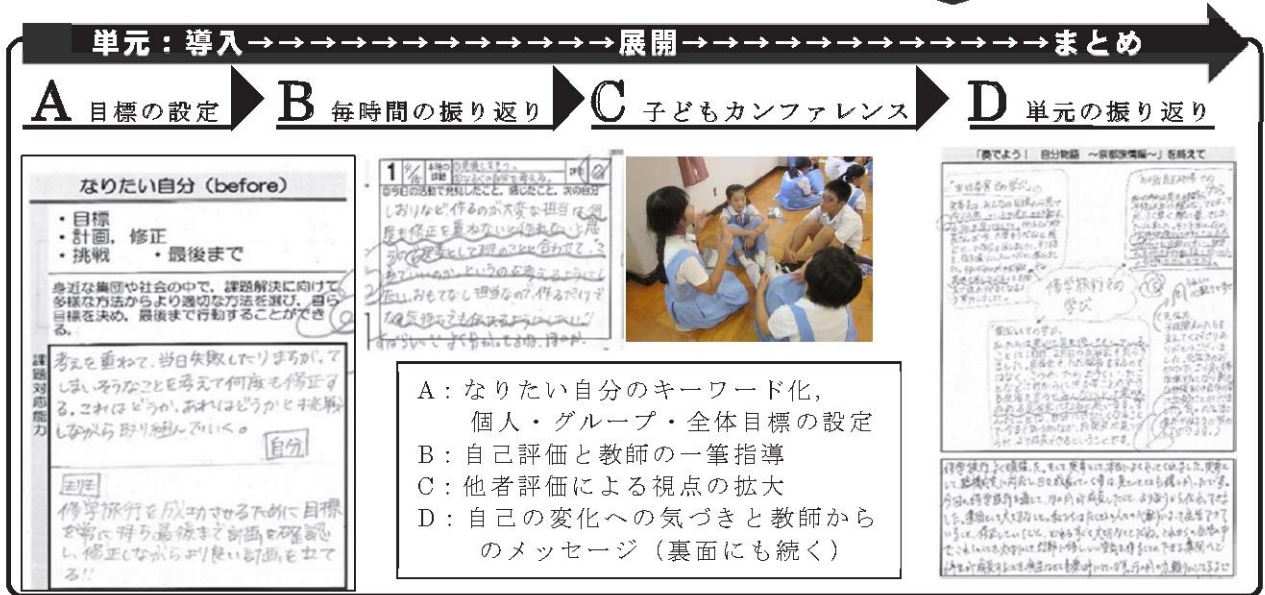
単元の流れ	評価方法			評価方法の開発でめざす姿		
	質問紙調査	パフォーマンス評価	ポートフォリオ評価	子ども	教師	
事前 導入 展開 まとめ 事後	・質問紙作成 ・事前調査 ・毎時間の自己評価 ・事後調査 ・評価結果の分析と改善への見通し	・パフォーマンス課題作成 ・パフォーマンスを引き出す課題の実施(事前・事後) ※幼稚園:パフォーマンスを引き出す環境設定	・ルーブリック設定 ・12年間一貫評価規準に基づき単元のルーブリックを作成し事後修正 ※幼稚園:資質・能力評価表を活用	・ポートフォリオ計画 ・パフォーマンス課題(事前・事後)の評価結果 ・質問紙調査結果(事前・毎時・事後) ・成果物(OPP・作文・作品・行動の記録等)	ルーブリックや他者による評価を活用し、自己変容を促す。 ※幼稚園:身近な人への信頼感を強めてみる。	評価計画に基づき、状況に合わせた指導を行う。 評価結果を踏まえ、指導の改善を図る。
◎年間3回程度、小中共通の児童生徒質問紙調査を実施し、肯定的回答の変化から全体の傾向や、個の意識の変化を把握し、教師の見とり等と併せて、成果や課題を見つけ、単元指導計画の改善を図るとともに、子どもへのフィードバックをする。						

(3) 12年間一貫の評価の実際

① 発達の段階に即した評価



② OPP (ワンペーパーポートフォリオ) の内容



4. 課題と展望

幼小中の教師が12年間一貫の視点に立って評価研究の目的を捉え、子供の実態や評価の特徴を交流し、理解を深め実践に生かすことができつつある。また単元で育てたい資質・能力を子供自身が自覚し、友達や先生からの助言により視点を広げながら振り返りを行うことで、自分のよさに気づき、より主体的に取り組もうとする姿も見られるようになっていく。毎時間の振り返りの時間の確保や教師の一筆指導をタイムリーに返却することは容易ではなく、フィードバックの効果も即効的とはいかないが、今後も、子供と教師が目標や評価について共有して取り組むことにより、評価の信頼性、妥当性を高めていきたい。

【参考・引用文献】

広島大学附属三原学校園 HP https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara

文部科学省研究開発学校指定校研究開発実施報告書 平成28年度〔第5年次(延長2年次)〕
(鈴木 昌二・松本 裕子)